

山本果樹園 株式会社

■ 多角化と情報発信により経営発展を目指す



〈法人の概要〉

所在地: 〒046-0002 余市町登町 1102-5

代表者: 代表取締役 山本幸章

構成員: 4名(構成農家2戸)

役員: 3名 常時雇用者: 3名

設立: 平成20年3月 資本金: 400万円

事業内容: 果樹/観光農園、農産物加工、飲食店舗、直販、インターネット販売

りんご 3.3ha、おうとう 2.4ha、ぶどう 1.8ha、なし 0.5ha、プルーン・プラム 0.3ha、もも 0.4ha、くり 0.3ha、ブルーベリー 0.2ha、いちご 0.3ha、その他 0.2ha (H22年)

経営面積: 9.7ha

売上高: 1億7,000万円(H22年)

電話: 0135-23-6251 FAX: 0135-21-2929

URL: <http://www.fruits-yamamoto.net/>

E-mail: y-info@fruits-yamamoto.net

〈法人のあゆみ〉

- | | |
|--------|----------------------------------|
| 明治 10年 | 果樹を植栽 |
| 昭和 58年 | 山本幸章氏に経営継承 |
| 59年 | 観光農園部門を開始 |
| 平成 8年 | 果樹の委託加工により販売を開始 |
| 9年 | 飲食店舗を開設 |
| 18年 | 加工施設を建設、果樹を使った加工・販売を開始 |
| 20年 | 山本果樹園株式会社を設立
経営面積 9.7ha でスタート |



〈設立の経緯・設立後の状況〉

- ・山本幸章氏は、明治10年に果樹植栽から始まった当果樹園の後継者として就農後、昭和58年に経営を継承し、昭和59年に観光農園部門を、平成8年にリンゴジュース・ジャムやアップルパイの委託加工・販売を、平成9年に飲食店舗を開設するなど、経営の多角化を図ってきた。
- ・一方、集出荷・販売を行う会社を果樹農家6戸により運営を行っていたが、経営方針や債務等の整理をする中で、山本氏の果樹園の相続等を含めた法人化の検討を行い、平成20年3月、新たに農業生産法人として山本果樹園株式会社を立ち上げ、集出荷・販売を行っていた会社を吸収合併して、果樹の生産、加工、販売、観光農園、飲食店、量販店への直販、自社ホームページで観光果樹園のPR、インターネット販売など事業を展開。
- ・設立作業については、仕事の合間に短期間(2ヶ月)で進めたが、合併に向けて集出荷・販売会社の出資者が6名と多数であったため、債務等の整理手法の検討に一番時間を要した。また、関係行政機関に専門家がおらず、合併などに係る税制等の相談ができず苦労した。
- ・法人設立後、他業種の営業担当者を雇用し、積極的に観光客の入園数を増やす努力をしている。また、体験学習などを行う修学旅行生の受け入れや各地で実施される北海道物産展への農業生産物の出品も積極的に行っている。
- ・平成22年には、売上高1億7,000万円とし、売上の4割が観光農園、4割が農産物の出荷販売、2割が加工販売となっている。

〈法人経営で生じた課題と対応策〉

- ・観光客の入園を増やすと、上下水道や駐車場の確保などインフラ整備が必要となり、この用地確保が難しい。
- ・農外企業の参加(資本金や参入企業)に制約がある。
- ・加工品(アップルパイ)を作るための加工施設を造ったが、保管、在庫管理など業務が増えた。
- ・丘陵地帯にあるため、観光バスなどの大型車両のルートの確保など課題が生じた。

〈法人経営のメリット・デメリット〉

- ・個人経営時から引き継いだ観光旅行ルート等を継続できた。
- ・従業員の雇用保険等の加入により従業員の確保ができた。
- ・ハローワーク等を活用して季節従業員を集めているが、法人化により求人が容易になった。

〈法人が継続するためのポイント〉

- ・経営戦略と人脈を大事にして進める。
- ・インターネットでの情報発信は大事であり、メールやホームページなどを上手く活用することで、販売などの売り上げを確保する。

〈これから法人化を目指す農業者へのメッセージ〉

- ・これからの農業は、地域特性を出して、グローバルな考え(国際基準)を持ち進めて行かなくてはならない。
- ・後継者育成を始め、技術・経営等を考えられる人材を確保する。
- ・保守的ではなく、先進的な考えも持つことも大事。

〈特徴的な活動や取り組み〉

- ・フルーツの町、余市の中でも、特にこだわりを持って、有機質を使った栽培をしており、果実が持つ本来の香りや味を引き出した生産に努めている。
- ・インターネットを活用しての情報発信を行うことで、国内外に農産物加工品を販売している。
- ・直販や生産したりんごを使ったアップルパイの加工・販売、飲食店舗「レストハウスシーズン」を開設している。
- ・平成22年の観光農園部門の入園者は約3万5,000人で、国外・道外・道内が1/3の割合になっている。

主な加工販売製品

アップルパイ、四季彩の丘ジュース・ジャム

〈経営目標と将来の展望〉

- ・売上高5億円(H22年1億7,000万円)。
- ・観光農園部門入園者数5万人(H22年3万5,000人)。
を目標に進めている。
- ・将来的には、大学などに求人して後継者を育成するための人材も確保していきたい。



〈視察等の受入〉

詳細については要相談。

連絡先: 0135-23-6251 (担当:代表取締役 山本幸章)